

株式会社ツカモトコーポレーション

2025年3月期

第2四半期決算説明資料

2024年11月8日



- 1.** 中間連結業績ハイライト
2. 中間連結計算書類
3. セグメント実績
4. 業績予想
5. 今後の見通し

中間連結業績ハイライト：2024年第2四半期（中間期）ハイライト

(百万円)

	2022年第2四半期	2023年第2四半期	第2四半期業績予想	2024年第2四半期	公表数値との差	前年差
売上高	6,940	5,037	4,500	4,245	△ 254	△ 792
営業利益又は営業損失 (△)	57	△ 146	△ 280	△ 253	+26	△ 107
経常利益又は経常損失 (△)	135	△ 64	△ 220	△ 181	+38	△ 116
親会社株主に帰属する中間純利益 又は親会社株主に帰属する中間純損失 (△)	128	△ 39	△ 140	△ 121	+18	△ 81

※2024年5月15日公表

▶ 売上高は前年から15.7%の減収となった。

- ✓ 洋装事業、ホームファニッシング事業における大型案件の減少、OEM受注の減少。
- ✓ 健康・生活事業におけるTV等通信販売の販売不振の影響が大きい。
- ✓ ホームファニッシング事業における自社ブランド、新ライセンスビジネスを展開するが既存販路の減収を埋めるには至らず。

▶ 利益率改善、経費削減推進するも、営業利益、経常利益ともに赤字。

- ✓ 調達コスト、販売価格の見直しを行い売上総利益率が若干改善。
- ✓ 販売促進費や物流費をはじめ、販売費の経費削減に努めた。

▶ ツカモトウェルネスは想定通り推移。

- ✓ サウナ関連事業はサウナの成約が堅調に推移した。



1. 中間連結業績ハイライト
- 2. 中間連結計算書類**
3. セグメント実績
4. 業績予想
5. 今後の見通し

中間連結計算書類：中間連結損益計算書

(百万円)

	2022年 第2四半期	2023年 第2四半期	2024年 第2四半期	前年差	前々年差
売上高	6,940	5,037	4,245	△ 792	△ 2,694
売上総利益	1,759	1,495	1,299	△ 196	△ 459
(売上総利益率)	25.3%	29.7%	30.6%	0.9pt	5.3pt
販売費及び一般管理費	1,702	1,641	1,553	△ 88	△ 148
営業利益又は営業損失 (△)	57	△ 146	△ 253	△ 107	△ 310
(営業利益率)	0.8%	—	—	—	—
営業外収益	159	135	134	△ 1	△ 25
営業外費用	82	54	61	7	△ 20
経常利益又は経常損失 (△)	135	△ 64	△ 181	△ 116	△ 316
(経常利益率)	1.9%	—	—	—	—
税金等調整前中間純利益 又は税金等調整前中間純損失 (△)	135	△ 64	△ 181	△ 116	△ 316
親会社株主に帰属する中間純利益 又は親会社株主に帰属する中間純損失 (△)	128	△ 39	△ 121	△ 81	△ 250

中間連結計算書類：中間連結貸借対照表

(百万円)

	前連結会計年度末 (24/3/31)	2024年 第2四半期		前連結会計年度末 (24/3/31)	2024年 第2四半期
資産の部	28,175	26,776	負債の部	14,449	13,646
流動資産	6,848	5,874	流動負債	8,253	7,685
固定資産	21,326	20,901	固定負債	6,195	5,960
有形固定資産	12,653	12,623	純資産の部	13,726	13,129
無形固定資産	61	85	資本金	2,829	2,829
投資その他資産	8,611	8,192	資本剰余金	713	713
			利益剰余金	6,864	6,621
			自己株式	△ 40	△ 41
			その他包括利益累計額	3,360	3,006
資産の部合計	28,175	26,776	負債純資産合計	28,175	26,776

中間連結計算書類：中間連結キャッシュ・フロー計算書

	2023年 第2四半期	2024年 第2四半期
営業活動によるキャッシュ・フロー	212	△ 771
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 7	24
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 134	△ 109
現金及び現金同等物の期首残高	2,159	2,675
現金及び現金同等物の期末残高	2,230	1,818

(百万円)



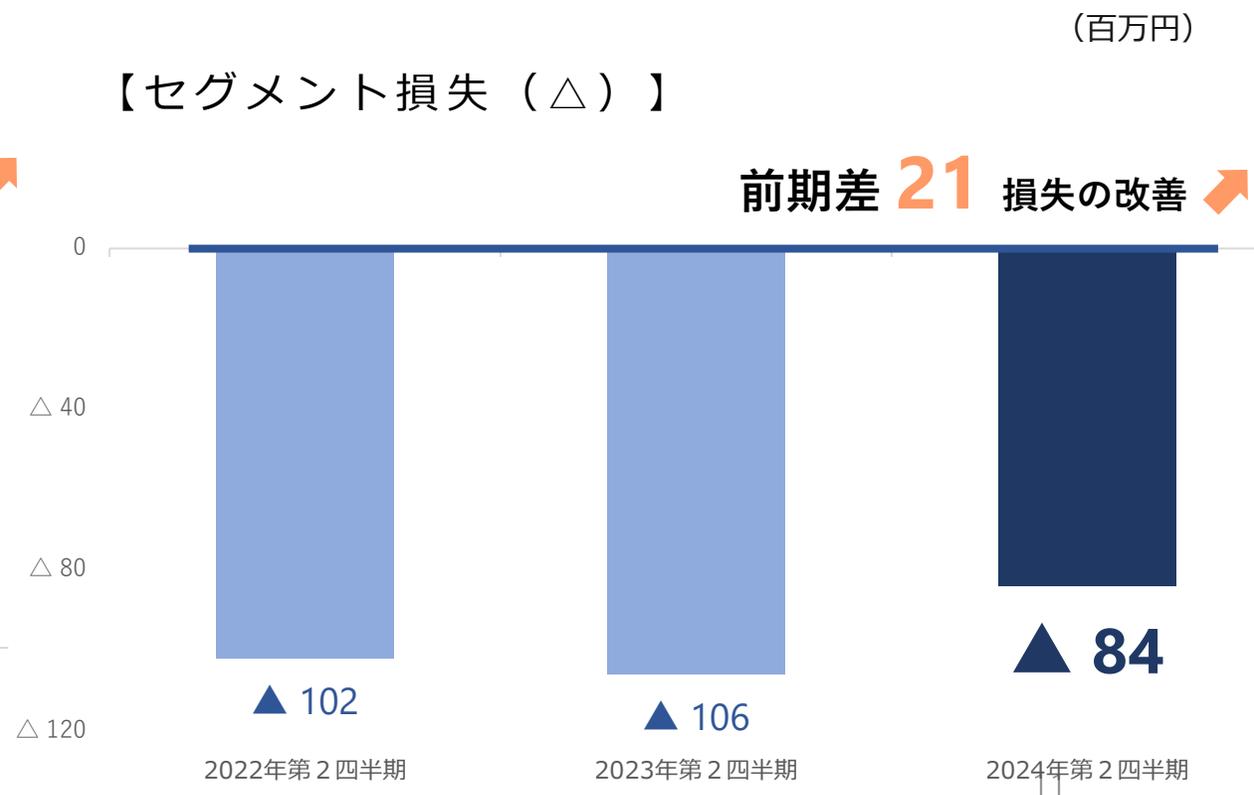
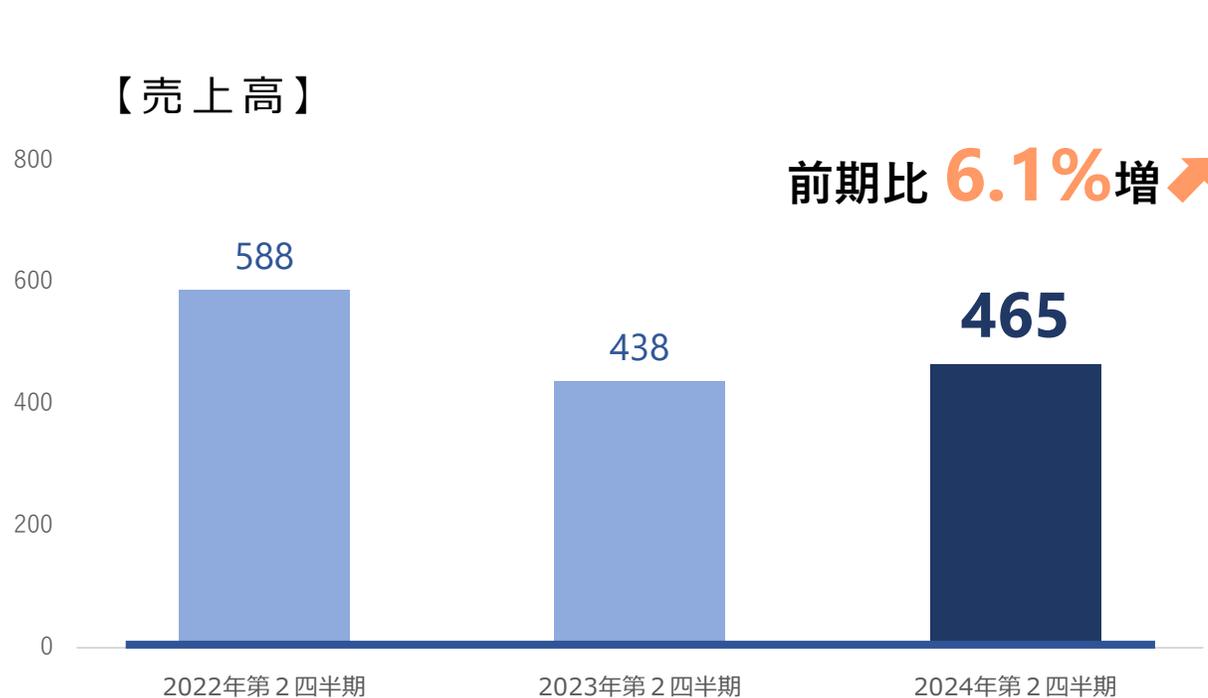
1. 中間連結業績ハイライト
2. 中間連結計算書類
- 3. セグメント実績**
4. 業績予想
5. 今後の見通し

セグメント実績：セグメント別売上高及びセグメント利益又は損失（△）

	セグメント売上			セグメント利益又は損失（△）（百万円）		
	2023年第2四半期	2024年第2四半期	差	2023年第2四半期	2024年第2四半期	差
和装事業	438	465	+26	△106	△84	+21
洋装事業	2,231	1,795	△435	△70	△84	△13
ホーム ファニッシング事業	497	209	△287	44	△54	△99
健康・生活 事業	1,393	1,283	△110	△144	△176	△32
建物の 賃貸業	528	546	+17	286	303	+17

セグメント実績：和装事業

- ▶催事ビジネスは売上高、開催数ともにほぼ前年並みに推移。
- ▶和装関連小物の現物販売が好調で前年から収益は改善した。



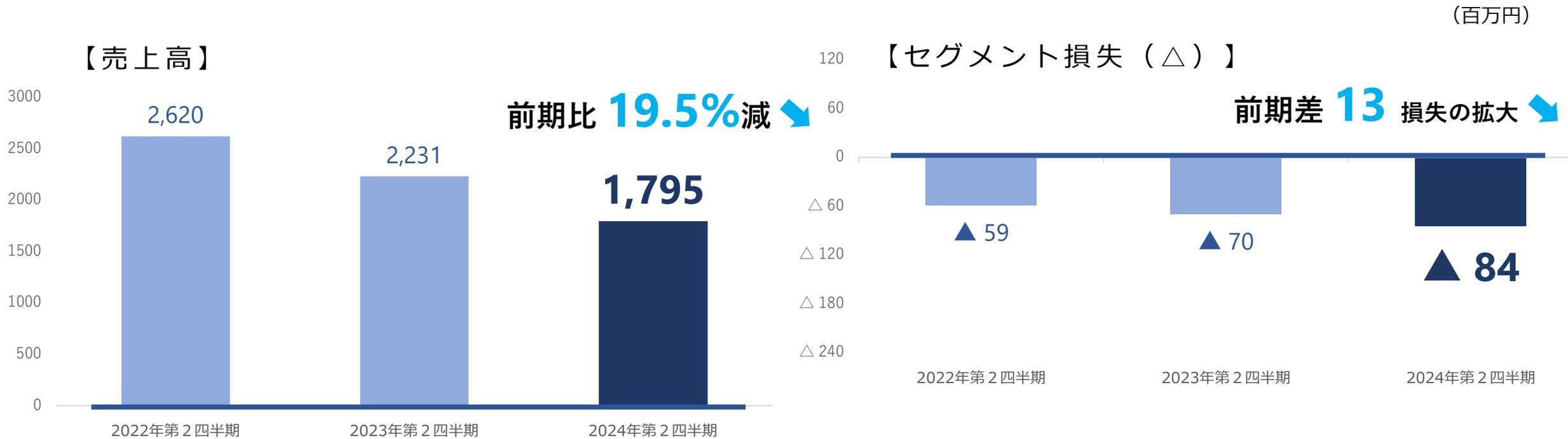
セグメント実績：洋装事業

アパレル事業

- ▶メンズ事業は百貨店ブランド（KEN COLLECTION、NOMINATE）と通信販売に注力するが、GMSとの取組みが減少した。
- ▶OEM事業はメンズ向けOEMが拡大するが、アパレル事業全体では減収となり、損失が拡大した。

ユニフォーム事業

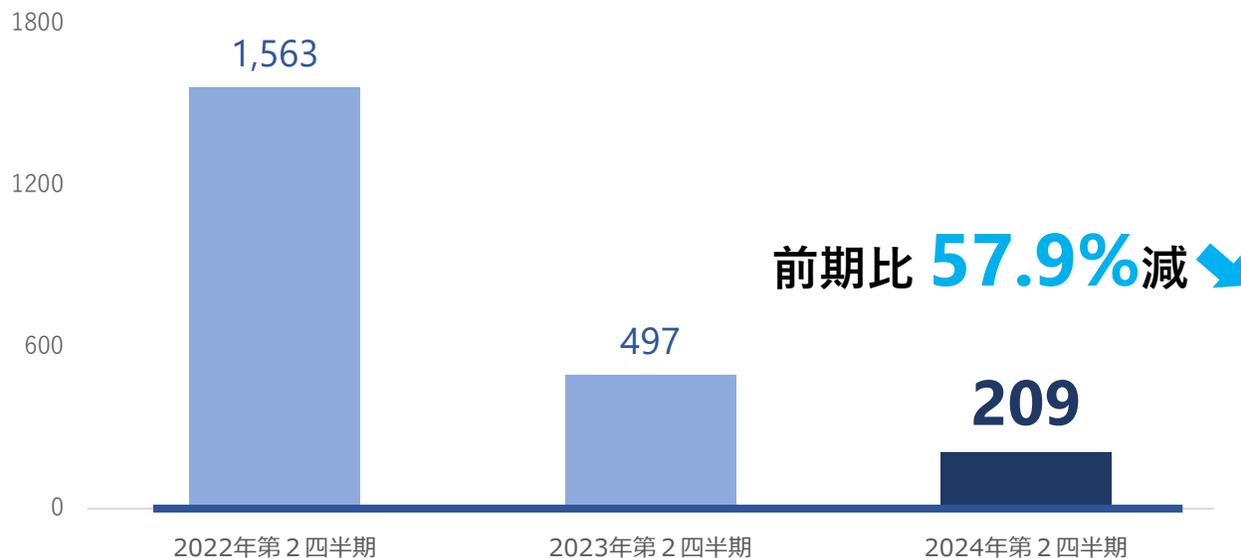
- ▶ワーキング・サービスを中心に営業を進めたが新規案件の受注が減少した。



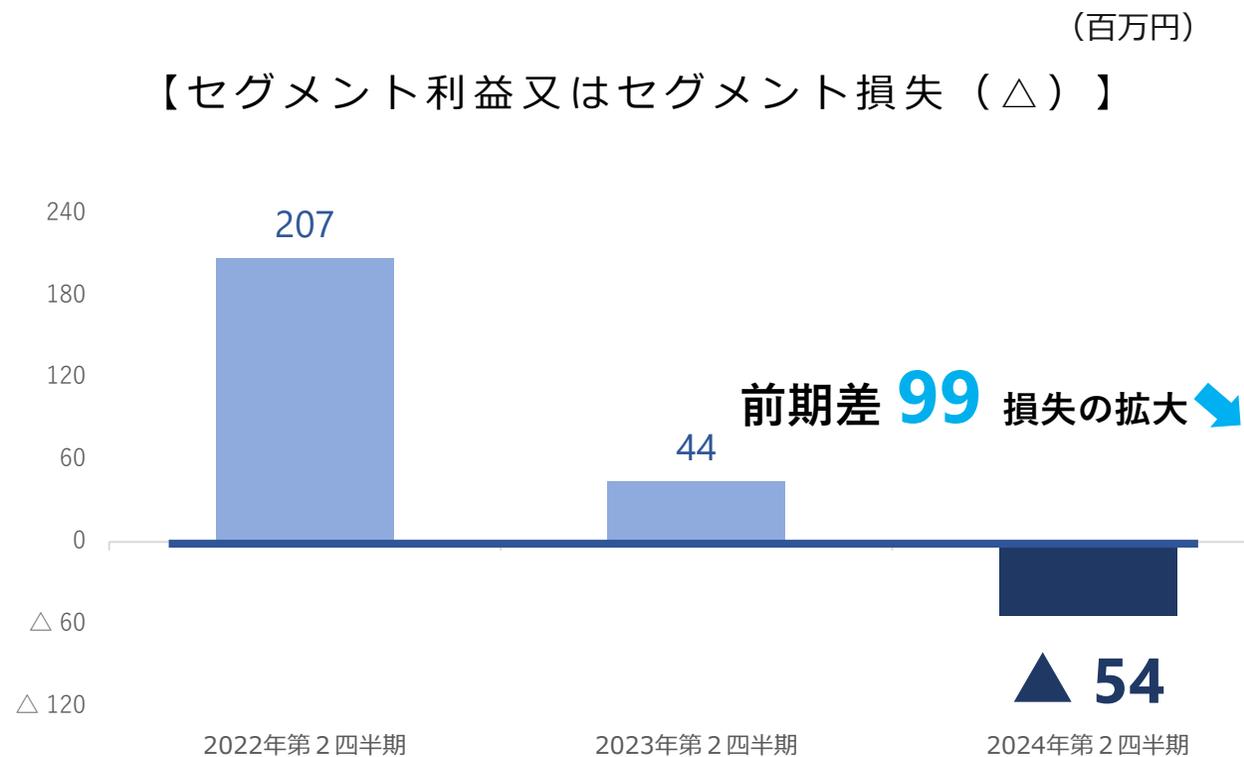
セグメント実績：ホームファニッシング事業

- ▶OEM製品の受注が減少し減収減益となり、営業損失の計上となった。
- ▶オリジナルブランド「BIYOMA」は期間限定店やECサイトでの販売が振るわなかった。

【売上高】

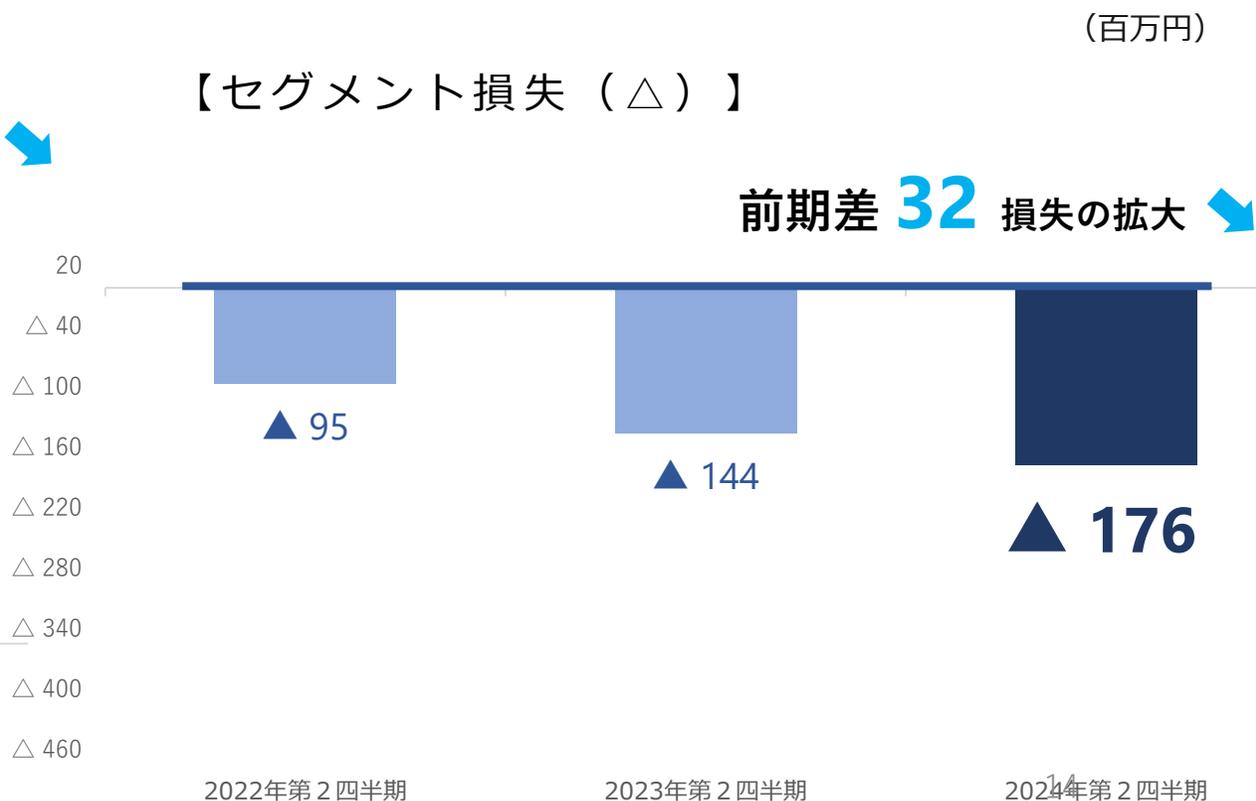
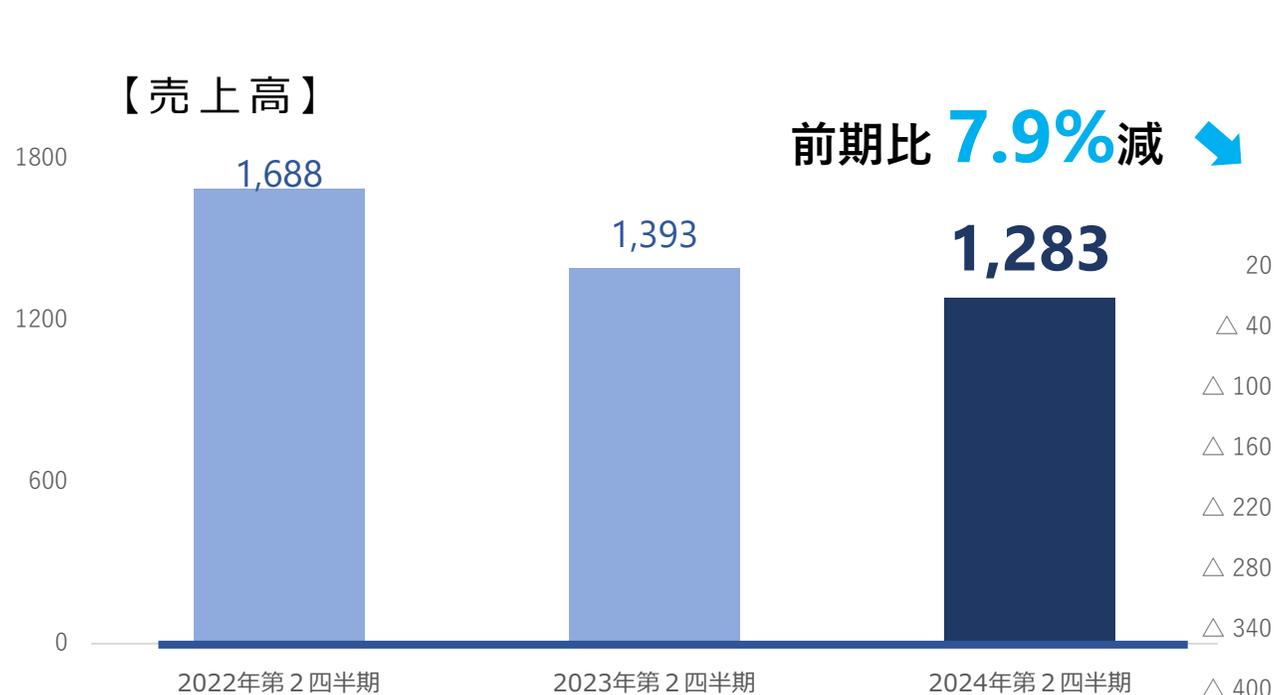


【セグメント利益又はセグメント損失 (△)】



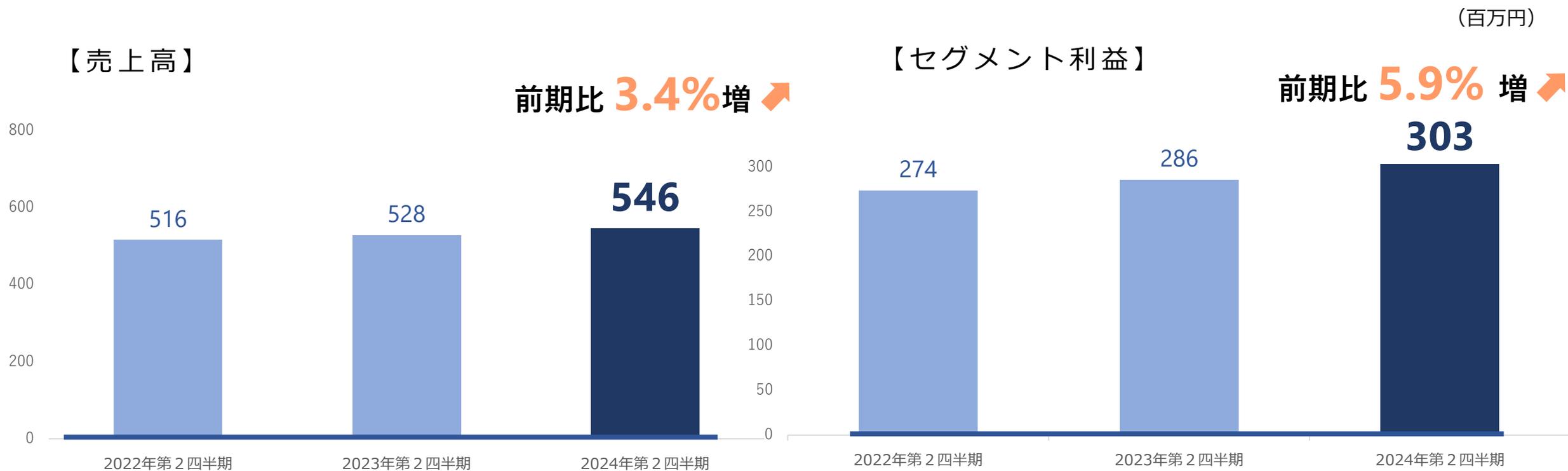
セグメント実績：健康・生活事業

- ▶GMSや家電量販店での店頭販売は堅調に推移した。
- ▶ECは経費の削減を推進した。
- ▶TV等通販販売の不振が大きく、減収となり、損失が拡大した。



セグメント実績：建物の賃貸業

▶ 不動産は新しいテナント入居があり、増収増益となった。





1. 中間連結業績ハイライト
2. 中間連結計算書類
3. セグメント実績
- 4. 業績予想**
5. 今後の見通し

連結業績予想

(百万円)

	2023年 3月期実績	2024年 3月期実績	2025年 3月期予想
売上高	12,879	9,798	10,000
営業利益	14	△ 222	0
経常利益	136	57	100
当期純利益	65	174	150

※上記の業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

※今後の市場動向を踏まえ、修正が必要と判断した場合には直ちに公表いたします。



1. 中間連結業績ハイライト
2. 中間連結計算書類
3. セグメント実績
4. 業績予想
5. 今後の見通し

和装事業

3分で着られる かんたん着物「YOUR」発表

- + 特許出願中の技術により、従来の着物に比べて着やすい。
着物初心者の方や海外市場などの新しい顧客層に提案していく。

✓ 『ファッションワールド東京』にも出展。



洋装事業 アパレル

メンズアパレルブランドの百貨店自主運営売場の拡大

+ メンズアパレルブランド『KEN COLLECTION』『NOMINATE』を展開する。

✓KEN COLLECTION 大人のカジュアルシーンにウィーク
エンドとオフィスカジュアルをテーマにした ウェアや雑貨を
提案。

✓NOMINATE メイド・イン・ジャパンを信条とし、
上質な素材・品質・肌触りを追求したものづくり。



通期に向けた今後の取り組み

洋装事業 ユニフォーム

ワーキング・サービスの強化

- + 中規模案件受注拡大のための体制構築。
 - ✓ 他メーカーとの協業や自社ノウハウを活用し、工数をかけずに中規模のワーキング案件獲得に注力する。
- + リネンサプライヤーとの取り組み強化

サステイナブルへの取り組み

- + 環境循環型企画の提案
 - ✓ 古くなったモノや捨てられるモノの素材や特徴を活かして、新たな製品を作る「アップサイクル」の提案。



通期に向けた今後の取り組み

ホームファニッシング事業

ヘインズ新規販路開拓

- + 百貨店やGMSのタオル売場に商品を陳列する従来の卸売の形式にとらわれない販路の開拓を行う。

✓自動販売機でのタオル販売企画を展示会にて出展。高速SAやシャワールームでの設置を提案。

✓タオルの吸水性の高さを訴求し、家電量販店にてドライヤーとセットで売場に展開。



リテールはBIYOMA常設店舗を展開

- + 10/29六本木ヒルズに1号店をオープン。2025年3月には大阪（梅田）、福岡（天神）にオープン予定。



通期に向けた今後の取り組み

健康・生活事業

通販販路の再構築と全チャネル向け商品の開発

+ TV通販や店頭など全チャネルでの販売が期待できる商品の開発に注力する。

✓オランダ空調家電ブランド d u u x から加湿器、暖房器具など秋冬向け空調家電のラインナップ強化。

✓クラウドファンディングにて温熱サウナマットのプロジェクトを発表。



サウナ事業の拡大

+ ツカモトウェルネス(株)が建設業許可を取得。これまでのサウナ機器販売のみならず、ハウスメーカーとの協業や施工関連の受注獲得に注力する。





TSUKAMOTO CORPORATION

株式会社ツカモトコーポレーション

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。